

事件ねつ造による大統領緊急令と憲法停止、大々の逮捕、独裁体制樹立のナチの手法。

――ナチズム・エンサイクロペディア――

1933年2月27日夜、国会が炎上した。放火犯として国会内でオランダ人・マリヌス・ヴァン・デア・ルッベが逮捕された。1933年12月23日死刑判決が下された。これは、「法律なくして刑罰なし」という基本的な法原則の違反を意味した。すなわち、犯行当時の法律によれば、有期の懲役刑にしかならないはずのものであった。

共犯者とされて告訴された4人の共謀者は、有罪が立証されなかった。ナチ党は、国会放火を「ボルシェヴィキのテロ活動」と称し、この事件をただちに支配確立のために活用した。

---

裁判において本人も放火を認め、有罪と認定されたが、その犯人については、法律なしに死刑に処した。

共犯者とされたディミトロフなどは無罪釈放された。すなわち、「ボルシェヴィキによるテロ活動」なるものは、ねつ造であった。

しかし、無罪釈放されたのは34年になってからであり、そのころまでに、ナチスの独裁体制は確立してしまっていた。

この国会放火事件を活用して独裁体制を速やかに確立したため、当時から今日まで、この放火事件はナチ党が仕組んだもの、という説が有力である。しかし、このエンサイクロペディアは、ハンズ・ムムゼンなど戦後の多くの研究を反映して、放火自体に関しては、ナチ党によるものとは「立証されていない」としている。

単独犯でも十分に国会を炎上させたという研究も積み重ねられてきた。

放火事件を「ボルシェヴィキのテロ活動」と即座に断定したこと、この飛躍にねつ造があった。

ナチズム・エンサイクロペディアによれば、

---

犯人がだれかという問題よりも歴史の進行にとってはるかに重要なのは、事件翌日、すなわち、1933年2月28日に閣議決定に基づいて大統領フォン・ヒンデンブルクによって発布された「民族と国家の防衛のための緊急令」(国会放火緊急令)と「ドイツ民族に対する背信行為と大逆的破壊活動に対する緊急令」であった。

これら緊急令は、ワイマール憲法の政治的基本権を破棄し、一種の非常事態を作り出した。その陰で、ナチスの野蛮なテロがいわば「合法化」された。

出所: [Teil II: Lexikon: Reichstagsbrand. Enzyklopädie des Nationalsozialismus, S. 2414 (vgl. EdNS, S. 696 ff.) (c) Verlag Klett-Cotta]

念のため、ドイツ語原文と参考文献も示しておこう。

Reichstagsbrand Am 27.2.1933 brannte in Berlin das Reichstagsgebäude. Als Brandstifter wurde der Holländer Marinus van der Lubbe im Reichstag festgenommen und am 23. Dezember 1933 vom Reichsgericht zum Tode verurteilt. Dies stellte die Verletzung des fundamentalen Rechtsprinzips »keine Strafe ohne Gesetz« dar. Er hätte nämlich nach dem zur Tatzeit geltenden Gesetz lediglich zu einer befristeten Zuchthausstrafe verurteilt werden dürfen. Die angebliche Täterschaft von vier kommunistischen Mitangeklagten ließ sich hingegen nicht beweisen. Die NSDAP bezeichnete den R. als »bolschewistischen Terrorakt« und nutzte ihn sogleich zur Herrschaftsstabilisierung. Die Brandstiftung durch die NSDAP ist hingegen bis heute unbewiesen.

Bedeutsamer aber als die Täterfrage erwiesen sich für das historische Geschehen die am 28. Februar 1933 aufgrund eines Kabinettsbeschlusses von Reichspräsident v. Hindenburg erlassenen »Verordnungen zum Schutz von Volk und Staat« ( Reichstagsbrandverordnung) und »gegen Verrat am deutschen Volke und hochverräterische Umtriebe«. Sie setzten die politischen Grundrechte der Weimarer Verfassung außer Kraft und errichteten eine Art Ausnahmezustand, in dessen Schatten der brutale Terror der NSDAP gleichsam »legalisiert« wurde.

Reiner Pommerin

Literatur:

Backes, Uwe u.a.: Reichstagsbrand. Aufklärung einer historischen Legende, München/Zürich 21987.

Mommsen, Hans: Der Reichstagsbrand und seine politischen Folgen, in: Vierteljahrshefte für Zeitgeschichte 12 (1964), S. 351-413.

[Teil II: Lexikon: Reichstagsbrand. Enzyklopädie des Nationalsozialismus, S. 2414 (vgl. EdNS, S. 696 ff.) (c) Verlag Klett-Cotta]